

## Ⅱ. 「グローバル復興ガバナンスモデル構築」プロジェクト

### 1. 背景や内容

2011年3月11日以後、福島は様々な課題に直面していますが、地域が一丸となって復興を進めています。2011年東日本大震災の際には、世界各国から支援金や応援が寄せられ、その後も世界中の地域や大学、企業、NPO、住民など、さまざまな組織や団体が協力の意志を示しています。世界が福島と共に取り組みたいと考えている理由は、福島の問題解決が、グローバル社会が抱えている様々な課題解決へ繋がると考えられているからです。

このようなグローバル社会の要請を受け、福島学院大学は、韓国の大学との国際交流や学生交流を皮切りに、台湾、インド、ネパール、フィリピン、ベトナムなどの国や地域と協力・共有活動を本格化しています。実際に、2023年12月には福島学院大学の理事長兼学長が韓国を訪問し、建国大学や仁荷大学と学生交流・共同研究に関する覚書を締結しました。2024年1月には、韓国の江原大学の学生が日本を訪れて学生交流を行いました。2024年2月からは、仁荷大学と福島の復興に関する経験とノウハウをグローバル社会と共有することを目指して「グローバル復興ガバナンスモデル構築」の共同研究を進めています。この研究には台湾も加わり、東アジアから共有や実践を試みており、その後インドやネパール、フィリピン、ベトナムといったアジア全域へと拡大しています。

2024年5月から「グローバル復興ガバナンスモデル構築」の共同研究は次の段階へと進み、今後の方向性や方法論、研究内容、目指す価値、共有戦略について議論が行われています。また、福島と世界の地域が今後さらに交流や協力を深めるための戦略やノウハウを共有する共同研究も進められています。私たちの福島が、グローバル社会へ向けて積極的に情報発信し、交流や協力を推進していくという強い意志を表し、そういう場を作る目的でこのプロジェクトを進めています。